



「環境問題を考える会」2022年度 (25周年記念) 総会を行いました!

2022年7月24日(日)下野市市民活動センターにおいて、コロナ感染対策の徹底と参加者数の制限により、環境問題を考える会の第25回総会を開催しました。今回で当会は設立25周年を迎えることになりました。これまで長い間活動を続けてこられたのは、ひとえに会員および関係者、市民の皆さまのご支援とご協力によるものであり、改めて御礼申し上げます。

総会では中里代表による挨拶で始まり、下野市環境課の篠崎課長から祝辞と激励の言葉をいただいた後、前年度の活動報告と会計報告がされ、次年度の予算、世話人会役員および活動方針が提案されて、いずれも満場一致で承認されました。また、今回は25周年記念として総会の最後に(駆け足でしたが)25年の歩みを振り返る報告も行いました。続いて行われた記念講演「ごみは燃やさず、埋めず、減らすもの～改めてごみ問題の本質と課題を考える」では、会の原点に立ち返り、設立当時からご指導いただいた熊本一規先生(明治学院大学名誉教授)にごみ問題の本質や課題を分かりやすく解説していただきました。以下、概要を紹介します。



総会開会の挨拶をする中里代表



祝辞の挨拶をされる下野市環境課の篠崎課長



25年間の歩みを振り返り紹介する益子事務局員



熊本先生による記念講演(要旨は次頁を参照)

記念講演：ごみは燃やさず、埋めず、減らすもの 「改めてごみ問題の本質と課題を考える」

講師：熊本一規さん
(明治学院大学 名誉教授)

◎以下は講演内容の要旨です。講演資料をご希望の方は当会事務局まで連絡下さい（部数に制約あり）。

1. 廃棄物政策は成果をあげたか 1-1. 廃棄物政策の目的の推移

日本の廃棄物政策は1900年の「汚物掃除法」制定が始まりですが、それは公衆衛生（感染症・伝染病対策）が目的で、それ以来焼却中心のごみ処理が実施されてきました。その後、1970年に「廃棄物処理法」が制定されて初めて環境保全の視点が入りました。その背景には石油化学によるプラスチック製品の普及があります。また、産廃という概念も初めて設けられました。その後、空き缶リサイクルのようにごみ問題を資源問題とする捉え方が生まれます。しかし資源として循環するには供給だけでなく需要も考慮する必要があります。これを踏まえて2000年に制定されたのが「循環型社会形成推進基本法」で、同時期に各種リサイクル法も次々と制定されたので、2000年は循環型社会元年と言われています。生産と消費だけでは資源が枯渇し、処分場も満杯になる非持続的の社会です。そこで持続可能な生態系の物質循環に学んだのが循環型社会づくりと言えます。今では「循環型社会」も「3R」とその優先順位も知られるようになりました。長い目でみれば確実に前進していますが、一方で質的にねじ曲げられたり、劣化していく問題もあります。

1-2. 廃棄物政策の問題点

一般廃棄物では税金負担のごみ処理という問題があります。廃棄後の処理を考えずに生産すると、そのツケが全て税金に押しつけられます。ごみ減量化の方策として有料化がありますが、私は有料化では解決しないと考えています。一つの理由として、廃棄物は負の財なので、有料化すれば不法投棄が不可避です。正の財では不法投棄しても得になりませんが、負の財では廃棄側も処理側も不法投棄すれば得するからです。下水道の料金は上水道の使用量に応じて徴収するため、下水を不法投棄する人はいません。ごみも同じで排出量に応じて有料化するのではなく、下水にとっての上水に当たるところで徴収すればよいのです。つまり、製品の段階でごみ処理費を徴収すれば不法投棄は避けられます。それが「拡大生産者責任」の考え方です。

有料化の減量化効果については、それを示す全国的データがありません。久留米市では有料化したが4年間ごみが減らないため、5年目に17分別を始めたところ初めてごみが減ったという事実があります。ごみが減るのは有料化でなく分別の効果だということです。

拡大生産者責任（略称EPR）の本質は「処理費を生産者に負担させ、製品価格に含めさせる」ことです。これにより、不法投棄は起こらず、廃棄後の処理まで考えた生産（材質変更、設計変更）が行われるように



なります。EPRはドイツのデュアルシステムで採用され、欧州に広まりました。しかし日本では「引き取ってリサイクルすればEPRが実現する」と歪曲して導入し、容器包装リサイクル法や家電リサイクル法を骨抜きにしてみました。結果として事業者に比べ自治体の負担（税金

負担）が過大（80%以上）になっています。

リサイクルについては、拡散型リサイクル（土壌補強材、路盤材等）が問題です。実例としてフェロシルト事件（六価クロム・放射性物質汚染）があります。特に地中や地下で利用するものは不法投棄にも繋がるので、公共のチェック・管理が必要です。

プラスチックリサイクルは難題です。マイクロプラスチックは海洋汚染ばかり注目されていますが、その前の陸上汚染に目を向けるべきです。大気中にも拡散しているので、肺に吸い込むリスクの方が深刻だと思います。マテリアルリサイクルは低品質で高コストかつ環境汚染の恐れ（特に土木資材）があり、材質で分別する必要もあります。そこで、混合プラスチックは鉄鋼業（高炉還元）やセメント工業（燃料、原料）で利用の方がベターではないかと私は考えています。

2. 汚染防止の取り組みは成果をあげたか

2-1. 60年代後半以降の環境問題の推移

「環境問題」が叫ばれるようになったのは60年代後半であり、元々は公害問題（大気汚染、水質汚染）として始まりました。その後、70年代の公害国会で環境関連法（大気汚染防止法、水質汚濁防止法、廃棄物処理法等）が制定されました。その結果、汚染物質は公害防止技術で廃棄物になり、中間処理（焼却）を経て処分場へ行くことになりましたが、汚染物質がなくなったわけではありません。最初は処理技術の欠陥で大気汚染や地下水汚染が頻発し、全国のごみ処理施設に反対する住民運動が起こりました。今は処理技術の向上で環境汚染は治まってきており、これも環境問題に取り組んだ住民運動の成果だと思います。

2-2. 環境汚染の危険はなくなったか

処分場では汚水の漏出が避けられません。それは汚水処理施設で汚泥に変え、また処分場に戻すため、汚染物質は汚水処理施設と処分場の間を循環するだけです。最終的には処分場に落ち着くことになりませんが、遮水シートはいずれ必ず劣化するので、環境汚染（特に地下水汚染）のリスクはなくなりません。ドイツでは処分場跡地・工場跡地を永久監視する制度がありますが、日本にはありません。環境問題への取り組みは一定の成果をあげたものの、永久監視のない日本では汚染を子孫に押しつけていることになります。

再生可能エネルギー施設を見学！

8月27日（土）、当会も参加する「原発いらない栃木の会」主催の再生可能エネルギー施設見学会があり、当会から有志が参加しました。当日の天気は午後から大雨の予報でしたが、幸い殆ど雨に降られず、地域の様々な再エネ施設を見学できました。以下はその概要です。詳細は当会ホームページを参照下さい。

日時 2022年8月27日（土） 10時～17時

見学先

- 1) 那須野ヶ原土地改良区連合の水力発電所
 - ・那須野ヶ原用水ウォーターパーク
（下掛け水車、サイフォン式水車、クロスフロー水車）
 - ・百村第1・第2発電所（カブラン水車、30kw+90kw）
 - ・那須野ヶ原発電所（フランシス水車、340kw）
- 2) 東北電力の地熱発電所（PR館）
 - ・柳津西山地熱発電所（熱水による蒸気タービン発電、30,000kw）

いわゆる再生可能エネルギーの中でも、太陽光や風力はエネルギー密度が小さいため出力は面積で稼ぐ必要があります。そのため平地の少ない日本で大規模化すると自然環境や生態系を損なうことが避けられず、天気任せの問題もあります。一方、水力や地熱はエネルギー密度が大きいので高出力が可能であり、自然環境にも調和し、電力を安定供給できる利点もあります。今回、水力発電や地熱発電施設を見学し、改めてこれらの日本に適した再エネをもっと活用すべきではないかと思われま



那須野ヶ原の下掛け水車

地下水100%の水道水を誇る昭島市を訪問！

県南2市1町（栃木市、下野市、壬生町）の水道水は地下水100%です。そのお陰で安くて美味しい水が市民に供給されていますが、栃木県は地下水だけではいけないとして南摩ダムの表流水を2市1町に買わせようとしています。一方、全国には地下水のみで水道水を賄っている自治体が多数あります。その1つとして、下野市と同じ深層地下水100%の水道水で注目されている東京都昭島市を訪問し、行政や市民の話や水を聞くと共に水道施設を見学する企画があり、当会からも有志が参加しました。

以下、概要を紹介し、詳細は当会ホームページを参照下さい。

日時 2022年10月4日（火）13時～16時

訪問先 昭島市勤労商工市民センター（昭島市民と面談）

昭島市水道部（行政との面談、水道施設見学）

主催 栃木県南地域の地下水をいかに市民ネットワーク

昭島市水道部の外周フェンスには市内小学生が描いた「大切な水を守ろう」と呼びかけるポスターが多数掲示されており、行政と市民が協力して地下水の水を維持して行く姿勢が窺えた。同じ深層地下水に恵まれた下野市には是非とも昭島市を参考にしてもらいたいと思います。



昭島駅前の無料給水スポットにて

「市民活動センターまつり」に参加出展！

10月16日（日）、市民活動センターまつり2022が開催され、22の登録団体および個人が参加出展しました。3年ぶりに復活したせんたーまつりに環境問題を考える会もこれまで通り参加し、屋内会場にて各種展示を行いました。当日は好天に恵まれて当会の展示コーナーにも多くの来場者があり、会の活動PRや地域市民との交流をはかることができました。以下、概要を紹介し、

日時 2022年10月16日（日）10時～14時

会場 下野市市民活動センター>コミセン

主催 市民活動センターまつり実行委員会

環境問題を考える会の出展内容

- ・パネル展示（団体紹介、活動事例紹介）
- ・参考資料展示（ごみ問題、水道水問題、原発問題、他）
- ・ごみ分別クイズ

今回もごみ分別クイズは来場者に好評で、分別ルールやその合理性を巡る議論も大いに盛り上がりしました。



ごみ分別クイズのコーナー

福島原発周辺地域の現地視察会に参加！

福島原発事故の後、県内でも下野市議会を含む多くの市町議会が「脱原発のエネルギー政策を求める意見書」を採択し国に提出しました。しかし、いまだ3万人以上の方が避難生活を強いられる一方で、各地の原発が再稼働され、原子力緊急事態宣言はいまだに解除されず、これだけの被害に誰も責任をとらないまま、老朽化した原発の稼働延長や原発の新增設まで画策されています。このような背景の下、福島原発周辺の現状を改めて体験するため現地視察会が3年ぶりに企画され、当会からも有志が参加しました。以下、概要を紹介します。詳細は当会HPを参照下さい。

日程 2022年11月5日（土）～6日（日）

視察経路

- 1日目：道の駅川俣～飯舘村～南相馬市同慶寺（住職と面談）
～南相馬市の双葉屋旅館に宿泊（女将と懇談）
- 2日目：浪江町役場津島支所～浪江町津島区（避難困難区域）
～道の駅浪江～双葉町伝承館

主催 原発いらない栃木の会（当会も参加する市民団体）

今も終息しない現地の大変な状況について、放射線量をチェックしながら実感しました。私たちはこの現実を忘れず、改めて原発事故のもたらした被害の実態に向き合う必要があります。



同慶寺で住職の話を聞く参加者



浪江町役場津島支所にて

「地域の水道水を考える市民集会」に参加！

栃木市・下野市・壬生町の水道水は100%地下水です。そのお陰で、2市1町は安くて美味しい安全な水を市民に安定供給してきました。ところが、栃木県は「地下水だけでなく表流水とのバランスが必要」との理由で地下水の一部を表流水に置き換える方針を打ち出し、南摩ダムの水を2市1町に買わせようとしています。しかし表流水は濁水や汚染のリスクが高いだけでなく、専用施設が水害等の被害を受け易いため、表流水に替えればリスクが増大する上、水道水が高くてまずいものになります。こうした背景から、12月11日に下野市内で「地域の水道水を考える市民集会」が以下の通り開催され、当会を含む100名以上の市民が参加しました。詳細は当会HPを参照下さい。

日時 2022年12月11日（日）14時～16時半

会場 下野市新石橋公民館 2階 会議室4&5

内容 背景と経過報告

各地の視察報告（結城市、川崎市、昭島市）

栃木市・下野市・壬生町の報告（市民団体、議会）

質疑・意見交換

主催 栃木県南地域の地下水をいかに市民ネットワーク

共催 栃木市・下野市・壬生町の各市民団体（当会も参加）



主催者・大木代表の挨拶



会場を埋めた多くの参加者

会員募集中！「環境問題を考える会」では広く会員を募集しています。

地域の環境を大切にしたいと思う皆さん、是非ご参加下さい。

●年会費：1,000円 ●払込先：郵便口座番号 00160-1-139315

●問い合わせ先（事務局）

磯辺☎0285-44-6621/平戸☎0285-44-5280/益子☎0285-44-6891

E-mail : kankyomk@ja2.so-net.ne.jp

Homepage : <https://kankyomk.wordpress.com>



公式HP